

学校経営方針

大田区立松仙小学校
校長 荻間 秀浩

1 学校経営の基本理念

本校は、今年度創立65周年を迎える。開校以来今日まで、子供・保護者・地域社会と共に着実に築き上げてきた歴史と伝統を大切にし、未来の社会を生きる子供中心の教育を基盤に、社会の変化に柔軟に対応した、創造性に富んだ学校経営を進める。基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに、生涯にわたって学びに向かう力を培い、心豊かで国際性を備えた実践力をもつ子供の育成を目指して教育活動を展開する。都や区の教育目標・ビジョンを踏まえ、「健康・安全・人権なくして教育なし」という考えの基、児童・保護者・地域・教職員から「友達と楽しく夢中になれる、学び甲斐のある学校」「期待できる、通わせ甲斐のある学校」「同僚と切磋琢磨し、働き甲斐のある学校」と評されるような、実践と研究・研修を積み重ね、自信と誇りをもってその教育活動を推進する学校づくりを基本理念とする。

2 学校経営の基本方針

(1) 学校教育目標

○じょうぶな子ども (体) ○よく考える子ども (知) ○思いやりのある子ども (徳)

(2) 目指す学校像 (「あいうえおの学校」づくり)

あいさついっぱい
うんどう大好きな学校
えがおがいっぱい
おもいやりいっぱい

人との繋がりや、気持ちのよい挨拶から生まれる。児童が人としての礼儀をわきまえ、より良い人間関係を築く第一歩となる挨拶を重視する学校にしたい。生涯にわたって運動に親しむ素地は、幼少期に体を動かす心地よさや楽しさを知ることから始まる。スポーツだけでなく、体を動かして遊ぶ体験を多くできる学校にしたい。学習における「できた」「わかった」「やりとげた」時にみられる自然な笑顔がたくさんにしたい。また、すべての児童が安心して学校生活を送れるよう、教職員が模範となり、全教育活動を通して心を育て、思いやりのある学校をつくりたい。日々の教育活動を通し、実践していくことでこれらの目指す学校像の実現を図りながら、学校教育目標に迫っていく。

3 学校教育目標具現化のための方策 (目標と具体的な方策)

(1) じょうぶな子ども (健康・体力向上)

<目標>

- ☆ 体力向上の推進
- ☆ 健康教育の推進
- ☆ 安全教育の推進

<具体的な方策>

- ☆ 体育学習の充実 めあて学習の徹底と振り返りの充実 (今の自分を知り、次の自分を目指す)
体育黒板の活用、学習カード、場の設定、学習の流れの掲示、振り返り活動
- ☆ 体育的活動の充実 日常の学校生活における体育的活動を意図的・計画的に実施する。
松仙タイムの充実 (毎週金曜日 昼休み30分間の確保)
- ☆ オリパラ教育の推進・実践
- ☆ 1校1取組の実践 (長縄跳び)
- ☆ 1学級1取組の実践 (各学級における実践: 長縄跳び・短縄跳び・クラス遊び等)
- ☆ 体力テストの実施=>結果の分析・考察=>それに基づく取組の実施

- ☆ 家庭との連携 早寝・早起き・朝ごはんの奨励・徹底
 - ☆ 保健学習の充実
 - ☆ 用具の安全な管理、準備、後片付け等、活動するための安全の場の確保の徹底
(体育・図工・家庭科等全授業において)
 - ☆ 登下校の安全の確保・休み時間の遊び方の指導等、様々な場面・場所における安全面の配慮
 - ☆ 食育教育の充実(栄養士・食育リーダーの実践)
- (2) よく考える子ども(確かな学力)

<目標>

- ☆ 確かな学力の定着
- ☆ 学びに向かう力の向上
- ☆ 児童が生き生きと過ごせる学級

<具体的な方策>

- ☆ 昨年度まで継続してきた校内研究(生活・総合的な学習の「楽しい」授業の創造)の成果を生かしながら、さらに児童が学習に向かう力を高める。
- ☆ 日々の教材研究・研修に努め、児童が「できた」「わかった」と感じる授業づくりをする。
- ☆ 児童の考えを深め、引き出す発問・指示・板書の工夫、ノートづくりに努める。
- ☆ ICT機器やデジタル教科書の効果的な活用を図り、その成果を共有し指導法の向上に努める。
- ☆ ノートや記録をチェックし、児童の理解度を測り、指導や支援の方法の改善を図る。
- ☆ 家庭との連携をとり、宿題や家庭学習の充実を図り、学習習慣を確立するとともにその価値を実感できるようにする。(児童の努力が自分で実感できるようにする。)
- ☆ 外国語活動の充実(英語専科を中心とした外国語活動を5,6年70時間、3,4年35時間、1,2年8時間実施し、学ぶことの楽しさを味わう。)
- ☆ スタートカリキュラムの推進(入学児童に生活科を中心としたスタートカリキュラムを学校全体で取り組み、児童の主体性を育て、6年間の学校生活の土台としていく。)
- ☆ 「サポート松仙」を活用し、地域や外部人材の教育力を生かした学習を展開し、本物体験を味わわせる。(漢字検定の実施)
- ☆ 個々の児童の学習状況を把握し、一人一人に応じた個別支援を充実する。

(3) 思いやりのある子ども(豊かな人間性)

<目標>

- ☆ 心の教育の推進(特別の教科 道徳の実践)
- ☆ 自己肯定感の向上
- ☆ 規律ある態度の育成

<具体的な方策>

- ☆ フランクリン・コヴィー・ジャパン社の協力の下、「リーダー・イン・ミー」の教育理念を学習・生活・特別活動など様々な場面で活用し、児童の自己肯定感を高め、リーダーシップ教育を実践していく。
- ☆ 「特別の教科 道徳」の指導計画の完全実施
- ☆ 年間を通し読書活動を実施し、豊かな想像性・感性を育てる。
(読書学習司書や地域図書館・図書ボランティアの活用、読み聞かせやブックトーク)
- ☆ 音楽会や展覧会を通し、自己表現の楽しさや喜びを味わう。
- ☆ 明るく、目を見て挨拶ができるよう、挨拶運動や学級での指導を充実する。
(児童への意識付けを定期的に実施。)
- ☆ 松仙スタンダードを身につけ、節度をわきまえ、自主自立の精神を培う。
(学習や生活の様々な場面で声かけをし、意識付けをする。)
- ☆ 特別に支援の必要な児童に対する指導・支援の充実(スクールカウンセラー、サポートルーム巡回指導教員との連携、特別支援教室の増設、外部機関との連携等)
- ☆ ふれあい月間におけるアンケート、高学年アンケート、スクールカウンセラーによる5年生児童全員面接等によるいじめの早期発見・早期解決の促進

4 「楽しく」「共に学びあい」「切磋琢磨する」教師集団

学校における最大の教育環境は、日々子供たちを指導している教職員である。教職員一人一人が、自らの役割を自覚し、子供たちのために何ができるかを考え続け、実践していくことが学校全体の教育力を高めていく原動力となる。そのために「一人で」ではなく、共に学びあい、切磋琢磨しながら職務を遂行していく必要がある。さらに子供たちを日々指導していく中に「やりがい」や「楽しさ」を感じる教職員であってほしい。それが、学校全体の「楽しさ」につながっていく。そのために以下の点に気をつけて日々の教育活動を実践できる教職員でありたい。

- ☆ 教育公務員として場に相応しい「挨拶・返事・言葉遣い・接客・電話対応・服装等」を心がける。
- ☆ 法令を遵守し、社会人としてのマナーを踏まえて行動する。
- ☆ 報告・連絡・相談を徹底し、事故報告は迅速にし、事後対応は丁寧・誠実に行う。
- ☆ 週案の確実な作成（授業のねらい・手だて・振り返り・評価を行い、常に向上心をもつ）
- ☆ 授業の質の向上（しっかりとした教材研究をし、ねらいを意識した授業を行う。）
- ☆ 校内OJT・OFF-JTの推進（互いの授業実践を公開、授業公開・校務分掌の中での若手育成・校外での研究会への積極的参加等）
- ☆ いじめや生活の乱れ、非行、不登校の兆し、心のサインに敏感な教師になる。
- ☆ 人権を傷つけるような言動はしない教師になる。
- ☆ 決められた時間の中で、最大限に努力し、成果を出す教員集団となる。（働き方改革の推進）（健康な体に健全な精神・前向きな気持ちが芽生える。それが、児童の指導にも生きてくる。）

5 開かれた学校に向けて

地域の中から子供たちが登校し、地域の中で子供たちが育っていく。地域との連携・協働なくして、学校教育は成り立たない。開かれた学校づくりとして以下の点を推進していく。

- ☆ 教育活動の情報発信
ホームページをリニューアルし、積極的に日々の教育活動を発信していく。
学級・学年便りの定期的な発行。
- ☆ 学校公開と保護者アンケートの実施
年3回の土曜日学校公開を実施し、日々の教育活動を公開するとともに保護者アンケートを実施し、教育課程の改善を図っていく。
- ☆ 小中一貫教育の推進
地域の大森第十中学校、久原小学校と協力し、授業公開や協議会を定期的に行い、小中の連携を深めていく。
- ☆ 地域教育連絡協議会の尊重
学校の取り組みを実際に見てもらい、評価してもらうことで常に改善を図れるようにする。
- ☆ サポート松仙（学校支援地域本部）の活用
サポート松仙のネットワークを活用し、授業や行事等様々な場面で協力体制を継続する。
- ☆ 地域・サポート松仙・おやじの会との連携
各団体と協力した「夏休みわくわくスクール」を開催し、地域と児童、地域と学校がさらにつながるようにする。
- ☆ 学校評価の公開
年度末に学校の自己評価を実施し、ホームページ等で結果を公表する。